

2010年度

|   |   |    |       |          |
|---|---|----|-------|----------|
| 科目名   | 日英語比較1  |    |       |          |
| 担当教員  | 溝口 健司   |    |       |          |
| 配当  | 英語2   |    | コード   | 12320    |
| 開期  | 前期  | 講時 | 月曜日2限 | 単位数<br>2 |
| 授業テーマ   | 日本語と英語の諸相を比較することによって、それぞれの言語と文化の特質を探る。  |    |       |          |
| 目的と概要   | 人間という同じ動物種の産物である以上、日本語と英語は言語の本質部分を共有している。しかしまた、日本語も英語も、それぞれが固有の地域で固有の文化・歴史を基盤として成立しているために、非本質部分で固有の性格をもつことも事実である。両言語の相違は、言語類型、語彙、語順、文構造、音韻体系、文字体系、情報構造、時間表現、場所表現、翻訳可能性、表現性、発想、論理性などの個々の領域において、またいくつかの領域をクロスした形で現れる。日本語と英語がなにを共有し、どの部分がどのように異なり、そしてそれはなぜなのかを考える。 |    |       |          |
| 成績評価法   | 質疑応答における発言の質・量(50%)、および不定期試験(50%)によって評価する。  |    |       |          |
| テキスト  | 英語の論理・日本語の論理/安藤貞雄/大修館書店   |    |       |          |
| 参考書   | 大修館英語学事典/松浪有ほか(編)/大修館書店<br>日本語百科大事典/金田一春彦ほか(編)/大修館書店  |    |       |          |
| 履修に<br>当たっての<br>注意・助言   |   |    |       |          |
| 講義計画  |   |    |       |          |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 個の論理と集団の論理 (1)</li> <li>3. 個の論理と集団の論理 (2)</li> <li>4. 個の論理と集団の論理 (3)</li> <li>5. 表現構造の比較 (1)</li> <li>6. 表現構造の比較 (2)</li> <li>7. 日本語の特質 (1)</li> <li>8. 日本語の特質 (2)</li> <li>9. 語彙の比較 (1)</li> <li>10. 語彙の比較 (2)</li> <li>11. 語順の比較</li> <li>12. 文構造の比較 (1)</li> <li>13. 文構造の比較 (2)</li> <li>14. 文構造の比較 (3)</li> <li>15. 総括</li> </ol> |   |    |       |          |